



大学院 Newsletter No.42 2025.7

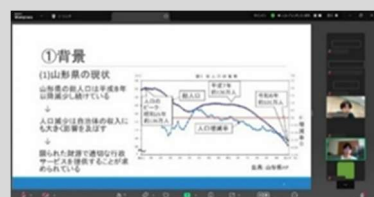
研究報告会と受賞の夏

令和7年度7月 院生研究報告会を開催しました

7月12日(土)に、院生研究報告会をオンラインで開催しました。院生研究報告会は、院生が自身の研究の目的、意義、方法と進捗状況の報告を行い、様々な分野の教員や他の学生との意見交換等によって、多角的な視点で自分の研究内容を見つめなおすことができる機会です。院生は年に2回報告します。

今回発表した院生は14名で、2つの分科会に分かれ、院生の報告に対し、活発な質疑応答が行われました。院生同士の質問も多数みられ、共に研究を進めていこうという思いが感じられました。

院生研究報告会に今回初めて参加した2名から、感想を寄せていただいています。今後の研究活動の充実した成果を期待します。



オンラインでの研究報告会の様子



修士課程 1年 須田さん

緊張もありましたが、自分の研究テーマや入学してからこれまで取り組んできたことを発表できたことで、研究者としての第一歩を踏み出せた気がして嬉しくもありました。このような報告の機会を定期的に設けていただけたことは本当にありがたく、今後も研究がより良くなるように活用していきたいです。



修士課程 1年 三浦さん

想定される質問をあらかじめ答えられるように準備して臨んだこともあり、いい緊張感で発表することができました。他の院生の発表や質疑応答を通して、より研究が深まっていくことを実感しました。また、7分間という限られた時間の中で自分の研究内容を伝える難しさにも改めて気づき、次回に向けて工夫を重ねていきたいと思っています。

地域共創コーディネーター養成プログラムが表彰を受けました



表彰式後の記念撮影

本学では、2016年から「地域共創コーディネーター養成プログラム」を開講しています。このプログラムは「学び」「運営」「実践」の3つの要素から構成され、その特徴の1つは「ファシリテーション」と「コーディネーション」を学びの軸にしていることです。学んだファシリテーションおよびコーディネーションの理論と技法を実際に地域コミュニティの現場で応用することにより、実践後のふりかえりを含めて学びの定着を図ります。受講生は20代から70代までと幅広く、これまでに188名が修了しています。

今年、本プログラムは、非営利活動法人日本ファシリテーション協会より表彰されました。表彰理由は「様々な現場で多様性を認め合い寛容性を高め合う関係を構築し、それぞれの問題解決に取り組むことでウェルビーイング社会の実現に取り組む人材輩出活動を行っている」という点でした。

実際に、このプログラムで学んだ方の中は、企業、地域、行政、市民活動など様々な場で対話や協働を生み出し、それぞれの問題解決に寄与しています。さらに、災害現場でもネットワークやこれまでの経験を活かし、7月25日に山形県内で発生した豪雨災害では避難所訪問での聴き取りやニーズ調査等を行い、結果を自治体へのフィードバックし、迅速な被災者・被災地支援に貢献しました。

6月15日(土)に仙台市内で開催された表彰式には、本プログラムの担当教員武田真理子教授と運営委員が出席し、表彰状が授与されました。

